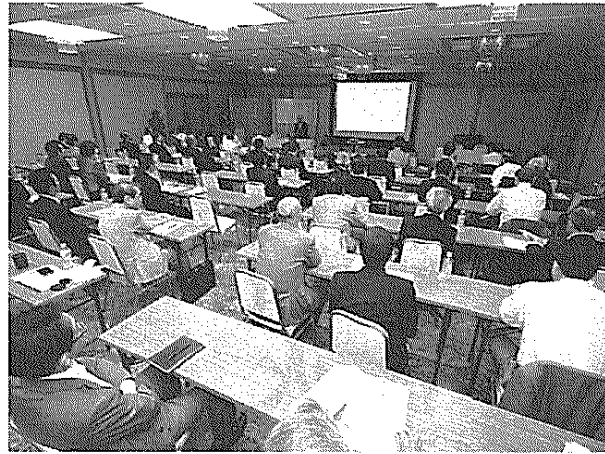


記念式典 節目初し 汐意莉大に

日本タクトイル異形管工業会（遠山秀一会長）は8日、東京・千代田区のスクワール麹町で第52回定時総会ならびに創立50周年記念式典を開催。各界から多数の来賓が訪れ節目を祝った。式典では、東京大学の藤田賢二名誉教授が「満洲の水道建設と現代水道」―水道人の英知と努力を振り返る―と題し記念講演。少雨・寒冷の地の硬水に対し、試行錯誤の繰り返しで浄水施設を構築。そうした当時の技術者が体験した重みを語った。今総会では功労者の表彰制度も創設が決まり、6名が表彰された。

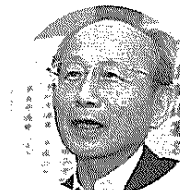


興味深い講演に多数が集まる

冒頭、遠山会長があいさつ。「当工業会は、ユーザーの皆さまからの供給要請に応え、かつ製品品質を向上させることを目的として昭和37年に設立され、皆さまのおかげでこのたび50周年を迎えた。今後も耐震化をはじめとする管路の機能強化に会員の製品をお役立ていただくため、会員一同



遠山会長



藤田名誉教授

さらに品質向上等に努めていく」と決意を語った。藤田名誉教授は記念講演で、「水源に思われず、冬季には酷寒となり、匪賊も出役する土地にあつて、水道技術者は浄水方法や管路の布設方法、給水塔での貯水方法などを工夫し、新技術・新工法の発展に努めた。こうした環境の中、多くの

人材が育ち、戦後、各地で水道建設を担ったと紹介。「こうした意気込みを東日本大震災からの復興でも発揮し、単なる復旧ではないワンランク上の水道を目指し、水道界の意気と力を結集しよう」と訴えた。式典では、永年役員・委員を続けた丸山の丸山銈太郎代表取締役社長、日之出水道機器の浦上紀之取締役社長、前専務理事の近藤香氏、永年委員を続けた幡豆工業の大塚英司常務取締役営業本部長、同社の成瀬公孝氏、岡本の三島雅人取締役をそれぞれ表彰状が贈られた。



藤本新理事

水質調査も同時実施

管カメ協総会 茨城大学と連携

全国水道管カメラ調査協会（略称「管カメ協」）は5月22日、大阪府中央区のシティプラザ大阪で第2回通常総会を開き、平成23年度事業・収支報告および24年度事業計画案などを討議した。また、従来の管カメラ調査は管内面状況の調査だけであったが、調査点での水質調査を採用することが24年3月の理事会で決定され、茨城大学と連携をとることも報告された。

冒頭、海道商毅副会長は「当協会も一般社団法人化して1年。日々の営業先から管カメ協という言葉が聞かれる機会が多くなり認知度の高まりを感じている。先日、第63回全国水道研究発表会で、管路更新に関する発表が多かったが、更新の引き金となるのは管カメラ技術である」と協会の存在意義を強調。杉戸会長は「今年で発足してから6周年に入った。当協会に対する水道事業体の認識が次第に高まり、事業実施件数も増加している。また、東日本大震災を踏まえ水道事業としては地震に強い施設・管網づくりがこれからのポイントとなる。管カメラ調査は計画・効率的な更新や耐震化に威力を発揮する」と管カメラ調査の強みを語った。



杉戸会長



玉井名誉顧問



多様な活用法を検討

23年度の活動実績は北九州水道展への参加や機関誌「管カメNews」発行、カメ認定委員会の開催など。24年度計画事業案では、日本水道工業団体連合会主催の旭川水道展へのブース

展示や、機関誌、第6号第7号の発行、年2回のカメラ実機デモの開催など昨年同様PR活動に力を入れる。総会後、日水コンの玉井義弘名誉顧問が「日中水道交流の実績と水ビジネスの課題」について講演し、海外での水ビジネスの課題として「施設を建設すること」が目的ではなく維持管理の遂行までを念頭とした計画が大切」と海外進出に対する心構えについて語った。

配管の耐震設計で講義

鋼管フォーラム 転造ねじを比較実演

第一高周波工業、JFEスチール、レッキス工業、シーケー金属の鋼管関連メーカー4社は5月23日、大阪府内で「鋼管技術フォーラム2012 in 大阪」を開いた。平成22年度版公共建築工事標準仕様書の改訂とポリエチレン粉体鋼管・転造ねじ接合による高耐圧・環境配慮システムが建築設備業界で注目されている。また、東日本大震災以来配管の耐震設計・施工に対する設備業者の関心も高まっている。

主催者を代表しあいさつした宮川純一レッキス工業社長は東日本大震災以後、配管の耐震設計・施工に関心が高まった」と4社連合で耐震化に取り組む姿勢を説明した。司会を務めた井出浩司第一高周波工業顧問は「3年前からパイプ・継手・施工接合の一式を4社で提案している。これまで個別の

課題」について講演し、海外での水ビジネスの課題として「施設を建設すること」が目的ではなく維持管理の遂行までを念頭とした計画が大切」と海外進出に対する心構えについて語った。講演では転造ねじとポリ粉体ライニング鋼管（フランクシキ含む）を中心に、溶接不要のベンディング鋼管の説明や実機デモによる切削ねじと転造ねじの強度実験を行った。また、新製品のデジタル式水圧・満水試験器、シール付管端防食継手なども紹介した。

拜謁の業に浴す

第44回管工機材・設備総合展が10月10～12日の3日間、東京・港区の東